国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION

平成 24 年 5 月 11 日

各　位

会社名　　国際石油開発帝石株式会社
代表者名　　代表取締役社長　北村 俊昭
（コード番号　1605　東証第一部）
問合せ先　　広報・IR ﾕﾆｯﾄｼﾞｪﾈﾗﾙﾏﾈｰｼﾞｬｰ　橘高 公久
電話番号　　03-5572-0233

INPEX 中長期ビジョンの策定について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、このたび、「INPEX 中長期ビジョン～イクシス そして次の 10 年の成長に向けて～」（以下、本ビジョン）を策定いたしましたので、お知らせいたします。

当社は、2008 年 10 月の完全統合以降、安定的かつ効率的なエネルギー供給を大きな使命として、世界 26 か国で 70 以上のプロジェクトを推進してまいりました。その結果、生産量・埋蔵量で国内トップの規模を有し、世界的にも上流専業企業の中堅に成長、併せてガスサプライチェーンについても、国内ガスインフラを着実に拡充しております。

しかし、エネルギーを巡る国際情勢は急速かつ複雑に変化しており、エネルギー開発に対するさまざまなリスクが見込まれる中、従来にも増して中長期的視点に立った着実な事業運営が求められております。特に、日本においては、2011 年 3 月の東日本大震災からの復興とエネルギー政策の再構築が大きな課題となっております。

2012 年 1 月にイクシス LNG プロジェクトの最終投資決定を経たこのたび、当社が中長期にわたり持続的発展を遂げるための成長目標と、この達成に向けたイクシス生産開始までの当面 5 年間の重点的取り組みを明らかにするため、本ビジョンを策定いたしました。

当社は、本ビジョンで掲げた成長目標の達成を通じて、企業価値の持続的向上を図り、株主をはじめとするステークホルダーの皆様から社会的にかけがえのない存在として、より一層評価される企業になることを目指してまいります。

なお、詳細につきましては、別紙本ビジョンをご参照ください。

以上

INPEX
Energy for a bright future

INPEX中長期ビジョン

イクシスそして次の10年の成長に向けて



目指す企業像

INPEXグループ（以下、「当社」）は、

石油・天然ガス開発事業における持続的な成長を実現することにより、
国際的競争力を有する
上流専業企業のトップクラスを目指します。

天然ガスをコアとして、
広範囲な地域への安定したエネルギー供給に貢献することにより、
総合エネルギー企業へと展開・進化します。

日本のエネルギー自給率の向上において大きな役割を果たすとともに、
経済成長、社会発展に貢献します。

これらにより、株主をはじめとしたステークホルダーの皆様から
社会的にかけがえのない存在として
より一層評価される企業になることを目指します。

免責事項
本誌は当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。投資に関する決定は投資家ご自身の判断において行われるようお願いいたします。掲載内容については細心の注意を払っていますが、掲載された情報に誤りがあった場合、当社は一切、責任を負うものではありませんのでご了承ください。

見通しに関する注意事項
本誌は当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述に該当する情報を含んでいます。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる当社の将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありあません。
・原油および天然ガスの価格変動および需要の変化
・為替レートの変動
・探鉱、開発、生産に関するコストまたはその他の支出の変化
当社は本誌に掲載される情報（将来予想に関する情報を含む）を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

5 years
2012年1月
イクシスFID

10 years after Ichthys start-up
2016年末までに
イクシス生産開始

INPEX中長期ビジョン
～イクシスそして次の10年の成長に向けて～
の策定にあたって

当社は、2008年10月の完全統合以降、
安定的かつ効率的なエネルギー供給を大きな使命として、
世界26か国で70以上のプロジェクトを推進してきました。
その結果、生産量・埋蔵量で国内トップの規模を有し、
世界的にも上流専業企業の中堅に成長、
併せてガスサプライチェーンについても、国内ガスインフラを着実に拡充しています。

しかし、エネルギーを巡る国際情勢は急速かつ複雑に変化しており、
エネルギー開発に対するさまざまなリスクが見込まれる中、
従来にも増して中長期的視点に立った着実な事業運営が求められています。
特に、日本においては、2011年3月の東日本大震災からの復興と
エネルギー政策の再構築が大きな課題となっています。

2012年1月にイクシスLNGプロジェクトのFID（最終投資決定）を経たこのたび、
当社が中長期にわたり持続的発展を遂げるための成長目標と、
この達成に向けたイクシス生産開始までの当面5年間の重点的取り組みを明らかにするため、
「INPEX中長期ビジョン～イクシスそして次の10年の成長に向けて～」を策定しました。

2012年5月
国際石油開発帝石株式会社

目次

Challenges
エネルギーを取り巻く環境と当社成長の軌跡 …… 2
Strategic Goals
3つの成長目標と3つの基盤整備 …… 4
Measures for Growth
3つの成長目標と今後5年間の重点的取り組み …… 6
成長目標1　上流事業の持続的拡大 …… 7
　主要プロジェクト一覧 …… 8
成長目標2　ガスサプライチェーンの強化 …… 10
成長目標3　再生可能エネルギーへの取り組み強化 …… 12
Foundations for Growth
3つの基盤整備 …… 14
基盤整備1　人材の確保、育成と効率的な組織体制の整備 …… 15
基盤整備2　成長のための投資と適切な株主還元 …… 16
基盤整備3　グローバル企業としての責任ある経営 …… 17

エネルギーを取り巻く環境と当社成長の軌跡

Challenges



エネルギーを巡る国際情勢は近年、
資源獲得競争の激化、原子力発電を巡る議論や環境への影響など、
地球規模でさまざまな課題を抱え、大きな変化に直面しています。
当社では、このような事業環境の変化に即応しながら、
着実に生産量・埋蔵量を拡大し、
国内における上流専業トップ企業としての地位を確立しました。
当社は今後もエネルギーの安定的かつ効率的な供給の実現に向け、
よりアクティブに、グローバル企業としてのさらなる成長を目指します。



世界のエネルギー需要は長期的に拡大

- 世界のエネルギー需要は、長期的に拡大する見通しで、特に天然ガスシフトと再生可能エネルギーの利用拡大に多くの関心が集まっています。国際エネルギー機関（IEA）の予測によれば、天然ガスは、中長期的に世界の一次エネルギー需要の約1/4をまかなう見込みであり、その需要は2009年から2035年にかけて50%以上増加する見通しです。
- 石油・天然ガスの探鉱・開発作業は、深海部や極地など、技術的に難しい地域への取り組みが迫られています。
- シェールガス※1、重質油など、非在来型資源と呼ばれる新たなエネルギー資源が注目されています。

※1 泥岩の中で、特に固く、薄片状に剥がれやすい性質をもつシェール（頁岩）に含まれる天然ガス。

エネルギー開発業界はダイナミックに変化

- 大規模な石油・天然ガスの探鉱・開発には、10年を超える長い期間と数兆円規模の巨額の投資が必要となっています。
- 資源ナショナリズムの高まりや探鉱・開発の中心が技術的に難しいエリアにシフトしつつある状況などから、活発な資源外交を含めエネルギー開発の権益確保を巡る競争は熾烈化し、経済条件も厳しさを増しています。
- このような状況で、将来の資源確保に向け、エネルギー開発企業は、政府や他企業との連携、資源国との関係強化による権益獲得に加え、資産ポートフォリオの向上や規模拡大のための資産買収、さらには人材、技術、情報などの獲得にも資する企業M&Aなど、さまざまな動きをダイナミックに展開しています。

安全操業と環境問題、地球温暖化への対応

- エネルギー開発においては、安全操業と環境面での万全の配慮が必要とされ、そのための技術や管理システムも高度化しています。
- 気候変動に関する国際連合枠組条約などに基づく温室効果ガスへの対策にも適切な対応が求められています。

当社成長の軌跡

2008年10月の完全統合を経て、世界的にも上流専業企業の中堅に成長し、さらなる飛躍の入り口に。

2008年 国際石油開発と帝国石油が完全統合

INPEX 国際石油開発株式会社 1966（昭和41）年設立
＋
TEISEKI 帝国石油株式会社 1941（昭和16）年設立
↓
INPEX 国際石油開発帝石株式会社

世界最大規模の2大LNGプロジェクトの開発準備作業へ

イクシスLNG プロジェクト（オーストラリア）
Ichthys PROJECT

アバディLNG プロジェクト（インドネシア）
ABADI

生産量・埋蔵量は着実に増加

26カ国73プロジェクト

ネット生産量※2
日量約43万
原油換算バレル
（以下、「バレル」）

確認・推定埋蔵量
約43億
バレル
（暫定値）

（2012年3月末時点）

※2 当社権益分生産量。生産分与契約にかかる生産量は、正味経済的取分に相当する数値。

ガスサプライチェーンの構築

直江津LNG 受入基地の建設



約1,400kmの国内 パイプライン網の拡充



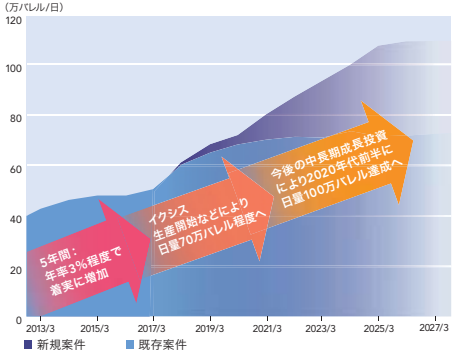
3つの成長目標と3つの基盤整備

Strategic Goals

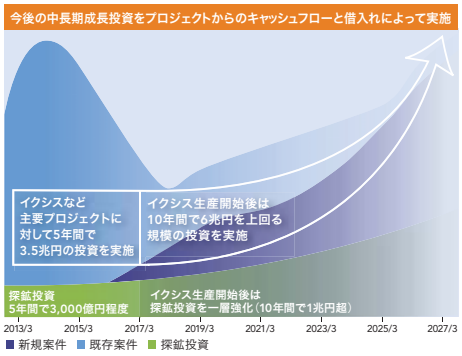


エネルギーを取り巻く環境を踏まえ、
当社は今後の持続的成長による企業価値向上を目指し、
中長期的に「3つの成長目標」を達成し、
「3つの基盤整備」を進めていきます。
2020年代に達成するターゲットを明確化することで、
当社が今後進むべき方向を明らかにし、
その実現に向けて具体的に取り組んでいきます。

ネット生産量長期見通し



今後の投資イメージ



国際的競争力を有する
上流専業企業のトップクラスへ

天然ガスをコアとする
総合エネルギー企業へ

Measures for Growth

3つの成長目標

1 上流事業の持続的拡大
上流専業企業のトップクラスを目指して

【2020年代のターゲット】
2020年代前半にネット生産量日量100万バレル達成

【今後5年間の重点的取り組み】
- イクシス、アバディの確実な立ち上げと事業シナジーの拡大
- 探鉱投資を足元の水準より倍増し、5年間で総額3,000億円程度（イクシス生産開始後は10年間で1兆円超に拡大）を実施
- 中核的地域※1や有望地域における探鉱・開発の大幅強化、非在来型資源への展開

※1 当社が主要な権益を保有しており、操業経験も豊富なインドネシア、オーストラリアを中心とした東南アジア、オセアニア地域

- 積極的な資産買収の実施、企業M&Aの具体的検討

2 ガスサプライチェーンの強化
ガスビジネスのグローバル展開を目指して

【2020年代のターゲット】
長期的に年間30億m^3の国内ガス供給量の実現を目指し、2020年代前半に25億m^3を達成

【今後5年間の重点的取り組み】
- 直江津LNG受入基地と富山ラインの完成
- マーケティング機能、自社船団（フリート）による輸送能力、需給調整機能の確保に向けた取り組み
- ガス・電力事業者との連携拡大により緊急時などにおける供給セキュリティ対策を強化
- エネルギー政策の動向を踏まえたLNG火力発電への関与のあり方を検討

3 再生可能エネルギーへの取り組み強化
社会に貢献する総合エネルギー企業を目指して

【2020年代のターゲット】
次世代の成長を見据えた研究開発、事業化の取り組みを強化

【今後5年間の重点的取り組み】
- 地熱発電の事業化推進
- CO_2再資源化技術などの研究開発推進

Foundations for Growth

3つの基盤整備

1 人材の確保、育成と効率的な組織体制の整備
- 新規プロジェクト開発部門を創設し、地域事業本部や海外事務所との連携体制を強化
- 新規案件に関する情報収集、協議やマーケティング活動など、海外拠点を積極的に活用
- 国内外の人材を積極的に確保・活用し、グローバル人材を育成
- 意思決定を機動的、円滑に行うため、的確かつ効率的な業務遂行体制を確立

2 成長のための投資と適切な株主還元
- プロジェクトからのキャッシュフローと借入れにより、今後の中長期の投資資金（探鉱投資を含み5年間で総額3.5兆円、イクシス生産開始後10年間で総額6兆円超）を確保
- 「自己資本比率50%以上」、「純有利子負債／純使用総資本20%以下」を目標とし、健全な財務体質を維持
- 上流専業企業トップクラスを意識した株主還元と効率的経営の実現

3 グローバル企業としての責任ある経営
- CSR※2委員会の設置により、全社的なCSR推進体制を確立し、CSR経営を持続的に強化

※2 CSR：Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）

- グローバルな視点でのコーポレート・ガバナンスの持続的強化に向け、2013年3月期より具体策を実施
- コンプライアンス、HSE※3の取り組みを持続的に強化
- ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションを通じて信頼関係と協働関係を構築

※3 HSE：Health, Safety and Environment（労働安全衛生及び環境保全）

Measures for Growth

3つの成長目標と今後5年間の重点的取り組み



当社が総合エネルギー企業として持続的に成長するためには
3つの成長目標の達成に向けて着実に事業を推進していくことが不可欠です。
特に、当社事業の第1の柱である上流事業においては、
ターゲットである2020年代前半にネット生産量日量100万バレルを達成することで
国際的競争力を有する企業規模への拡大が見込まれ、日本の自主開発比率向上への貢献、
国内ガスインフラとの有機的結合、そしてグローバル・ガスサプライチェーンの構築が可能となり、
当社のさらなる成長へとつながります。
今後、イクシス、アバディの確実な立ち上げ、探鉱・開発の持続的強化、
それらを支える資金確保、積極的な資産買収の実施、企業M&Aの具体的検討を
中心に取り組んでいきます。

成長目標 1 上流事業の持続的拡大

今後5年間の重点的取り組み

イクシスLNGプロジェクトの確実な立ち上げによる生産量・埋蔵量の拡大

- 2012年1月にFIDを実施し、資機材の調達および建設も順調に進捗、2016年末までの生産開始を予定しています。
- 2012年3月末時点における当社確認埋蔵量は11億バレル程度増加し、リザーブ・リプレースメント・レシオ※1（3年移動平均）は280%程度まで向上しました。

※1 期中の確認埋蔵量増加分／期中生産量

- 2017年以降のフル稼働により、当社生産量は50%程度増加し、キャッシュフローも大幅に強化されます。

イクシス操業を通じた知見、ノウハウの獲得

- オペレーターとしてイクシス操業を推進することにより、有力な石油・天然ガス開発企業としての実績と能力が認知されます。
- 国際的な企業間連携や新規案件獲得、資産買収、企業M&Aなどの機会が拡大します。
- 当社の人材育成の機会、国内外の優れたエンジニアなどの専門家を確保する機会が増加します。

アバディLNGプロジェクトの開発推進

- アバディ（第1次開発）をオペレーターとしてFLNG（洋上LNGプラント）方式で推進します。
- 2012年後半を目途に基本設計を開始します。
- 2012年3月にオーストラリアプレリュードFLNGプロジェクトへの参加を決定、同プロジェクトから得られるFLNGの開発・生産・操業ノウハウをアバディに活かします。

2大LNGプロジェクトによる中核的地域での事業シナジー拡大

- 2大LNGプロジェクトで整備される施設や生み出されるキャッシュフローを将来の探鉱・開発に最大限活用します。
- 中核的地域における大規模インフラと自社船団（フリート）の活用などにより、事業シナジーがさらに拡大します。

探鉱・開発の持続的強化

- 中核的地域において、重点的に探鉱・開発に取り組みます。
- 大規模な埋蔵量が期待される大水深、プレソルト※2、極地などを含む有望地域については、知見を有する企業とのパートナーシップを重視しつつ、優良案件への積極的な参画を目指します。

※2 近年ブラジル沖合などで発見が相次ぐ岩塩層直下の大水深・大深度油田の呼称。

- シェールガス、重質油などの非在来型資源については、開発条件、市場環境、環境保全、技術獲得などを考慮しつつ、選択的に取り組みます。また、GTL※3などの新技術の強化、活用も進めていきます。

※3 Gas to Liquidsの略で、天然ガスを原料に、化学反応によってナフサ、灯油、軽油などの石油製品を製造する技術

探鉱資金確保、積極的な資産買収の実施、企業M&Aの具体的検討と新規プロジェクト開発部門の創設

- イクシスの生産開始までの5年間において、公的制度の活用を含め、足元の水準の概ね倍増にあたる年間600億円程度、総額3,000億円程度の探鉱資金を確保、積極的に探鉱に取り組みます。
- 優良な資産買収案件に対しても積極的に取り組み、企業M&Aについて戦略的な見地から検討を実施します。
- 探鉱投資、資産買収、企業M&Aを一元的に追求する新規プロジェクト開発部門を創設し、地域事業本部や海外事務所と連携し、グローバルな取り組みを強化します。

成長目標 1 上流事業の持続的拡大

主要プロジェクト一覧（2012年3月末時点）

探鉱中　開発準備作業中　開発中　生産中

OP オペレータープロジェクト

◎中核的地域（東南アジア、オセアニア地域）　非在来型資源

探鉱中

中核的地域である東南アジア、オセアニア地域での探鉱活動に重点的に取り組んでいきます。また、大規模な埋蔵量が期待される大水深、プレソルト、極地などを含む有望地域で、有力企業とのパートナーシップを重視しつつ、相当程度の権益確保につながる、優良な経済性が期待できる案件に積極的に参画します。

開発準備作業中※／開発中

イクシス、アバディの開発作業などを着実に進捗させるとともに、他の開発案件についても、速やかな生産開始に向け、引き続き作業を実施します。特に中核的地域である東南アジア、オセアニア地域では、イクシス、アバディなどの主要プロジェクトとのシナジーを活かす可能性を追求します。

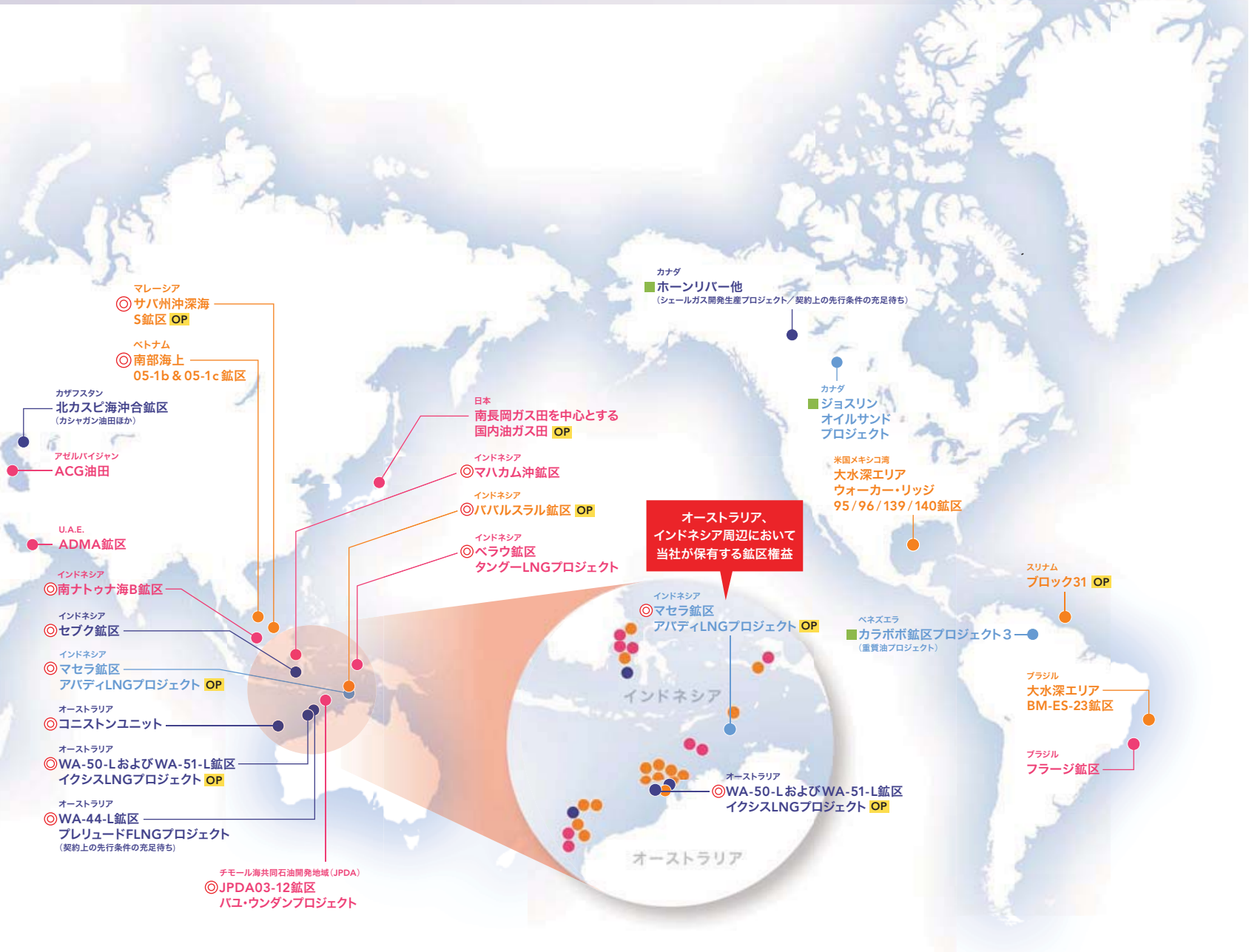
※FID実施前のプロジェクト

生産中

既存生産案件については、生産量増強、維持のため鉱区内の油ガス田追加開発作業や生産の効率化を進めていくとともに、重要プロジェクトにおける鉱区期限の延長・更新を図ります。

非在来型資源

今後有望なシェールガス、重質油などの非在来型資源について、開発条件や市場環境、環境への影響、資源確保の観点からの意義、当社技術力や競争力にとっての意義などを考慮しつつ、長期的視点に立ち、選択的に取り組みます。



Measures for Growth

成長目標 2 ガスサプライチェーンの強化

今後5年間の重点的取り組み

直江津LNG受入基地と富山ラインの完成

当社が海外で開発する天然ガスを活用するため、国内ガスインフラの整備を図り、より広域かつ多くのユーザーの方々に安定的かつ効率的にガスを供給します。そのため、直江津LNG受入基地（2014年初操業開始予定）における年間約150万トンのLNG受入能力を活用し、富山ライン（2014年末供用開始予定）沿線などにおけるガス供給を拡大します。また、当社の基幹パイプラインである新東京ラインの能力を増強するとともに、ガス事業者などとの連携強化を通じて沿線の天然ガスの普及を促進します。

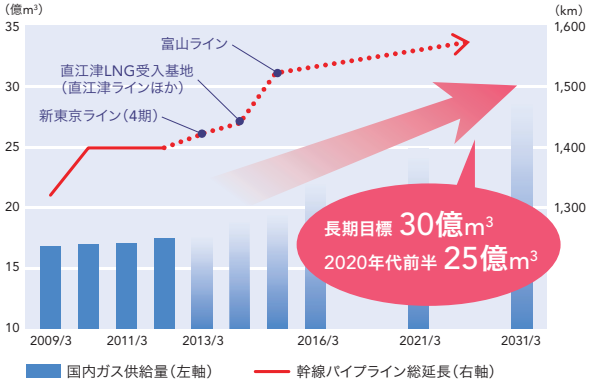
グローバル・ガスサプライチェーン構築に向けた検討実施

需給調整機能の強化を図り、オペレータープロジェクトの安定的な操業を実現することで、ガスサプライチェーンの強みを活かします。グローバルなLNGポートフォリオの構築や海外拠点の活用などによるマーケティング機能の強化、自社船団（フリート）活用による柔軟な輸送能力の強化、需給調整機能の強化に努めます。また将来的にグローバル・ガスサプライチェーンを構築するための準備を開始します。

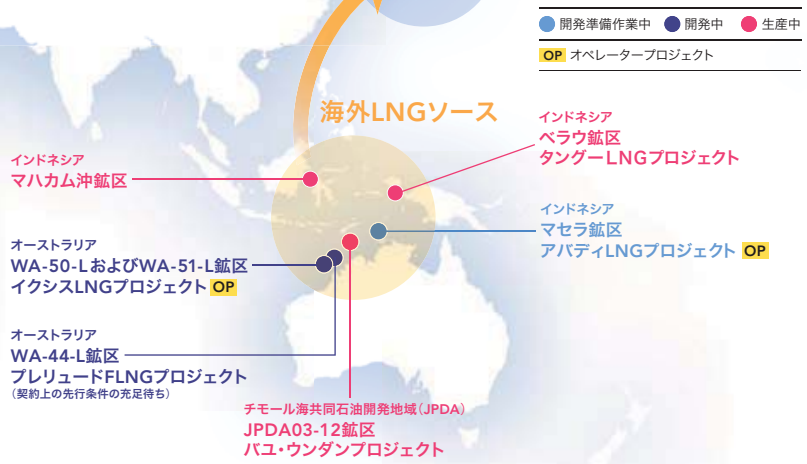
事業者との連携や広域パイプラインによる供給セキュリティ強化

ガス・電力事業者との連携強化により緊急時のガス融通体制を整備します。需要見通しやエネルギー政策動向を見据えつつ、パイプラインネットワークの拡大に取り組みます。当社が蓄積してきた高圧パイプラインの建設・運用・管理ノウハウをパイプラインの広域化に役立てていきます。併せて、地下貯蔵システムや直江津LNG受入基地の拡張についても取り組みます。ユーザーの方々に対して長期安定的なガス供給を確実にするとともに、LNG火力発電の必要性が高まると考えられることから、エネルギー政策の動向などを踏まえつつ、当社としてLNG火力発電への関与のあり方について検討を実施します。

国内ガス供給量長期見通し







Measures for Growth

成長目標 3 再生可能エネルギーへの取り組み強化

今後5年間の重点的取り組み

地熱発電の事業化

地熱は、日本が世界第3位のポテンシャルを有する重要な再生可能エネルギーです。今後、地熱発電は有望な再生可能エネルギーとして政府による規制緩和や支援拡充も検討されています。当社では、石油・天然ガスの開発で培った、探鉱・掘削などの技術を活かし、北海道、秋田県をはじめとする地域で調査活動などを行い、事業化に向けた取り組みに注力していきます。

水素利用技術を含む CO_2再資源化技術などの研究開発の強化

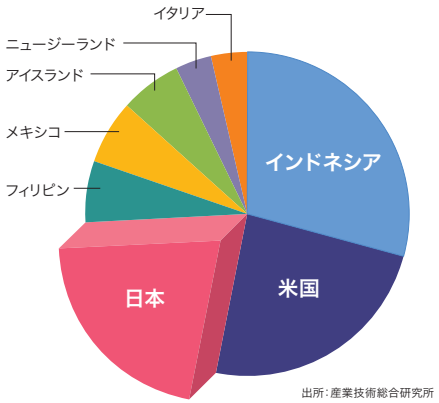
微生物や光触媒を用いたCO_2の再資源化技術（メタンなどへの転換）の基礎研究を進めていきます。また、グローバルな課題である温室効果ガスへの取り組みを強化し、CO_2削減に向けた技術開発への取り組みを推進します。各国法規制や国際的な議論の動向を踏まえ、排出権取引などの手段についても検討を進め、温室効果ガス削減に向けた体制の構築を目指します。

多様な再生可能エネルギー関連の事業化を検討

エネルギー効率の高い燃料電池の普及、メガソーラー発電事業への取り組み、効率の良いリチウムイオン電池の開発など、多様な再生可能エネルギー関連の事業化に向け可能性を検討していきます。

世界の主な地熱資源量

火山国日本の地熱エネルギー資源量は、インドネシア、米国に次ぎ世界第3位（2008年時点 約2,000万kw相当）。



出所：産業技術総合研究所



地熱井の仮噴気試験（帝石削井工業㈱）

日本の地熱発電の現状

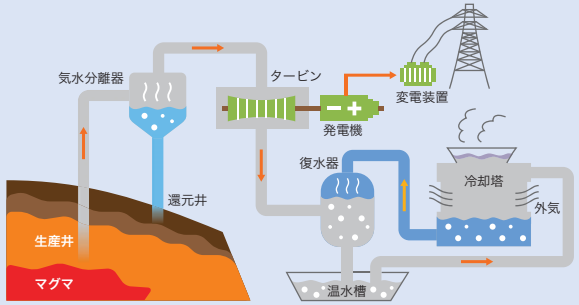
■ 当社の地熱発電調査エリア ■ 地熱発電所 ▲ 主な活火山

出所：産業技術総合研究所



地熱発電の仕組み

現在の日本の地熱発電所は、雨水などが地熱により加熱されて高温の熱水として地下に貯えられたものを取り出し、この地熱水を蒸気と熱水に分け、熱水は地下に戻して蒸気だけをタービンの動力に利用する蒸気発電方式です。



出所：経済産業省資源エネルギー庁

Foundations for Growth

3つの基盤整備



3つの成長目標を達成し、上流専業企業トップクラスとしての地位を確立するとともに
総合エネルギー企業へと展開・進化するためには、
これにふさわしい経営基盤の整備、確立が不可欠です。
このため当社は、新規プロジェクト開発部門の創設を含めた組織人員体制の整備、
投資資金確保と確固たる財務基盤の維持、
グローバル企業としてのCSR経営の強化などに積極的に取り組んでいきます。

基盤整備 1 人材の確保、育成と効率的な組織体制の整備

新規事業機会の発掘と機動的な意思決定を担う新規プロジェクト開発部門の創設

今後の成長を担う新規鉱区や優良資産の獲得、企業M&Aへの対応などの機能を抜本的に強化するため、新規プロジェクト開発部門を創設するとともに、地域事業本部や海外事務所との連携体制を強化していきます。
海外事務所は、広く当社の海外活動の拠点として、新規案件の情報収集やマーケティング活動などを進めます。特にイクシス、アバディに関わる当社グループ企業、海外事務所は、地域の中核拠点として、周辺開発や新規案件の発掘、有力企業とのパートナーシップを深化させていきます。

多様な経験、価値観を有するグローバル人材の確保と活用

オペレーターとしての大規模プロジェクトの推進や、プロジェクト数の増大といった企業規模の拡大に必要な人材の確保と育成を図ります。具体的には、多様な経験や価値観を有する国内外の人材を積極的に確保、活用し、自社のオペレータープロジェクトにおける教育、訓練などにより、企業としての国際競争力の強化に資する人材の育成に取り組みます。

的確かつ効率的な業務遂行体制の確立

ガスサプライチェーンの強化と国内事業の拡大に対応するため事業運営体制の強化を図ります。また、ITシステムの活用により、的確かつ効率的な業務の推進を図るとともに、国内外の情報収集、分析および戦略企画機能を強化します。



Foundations for Growth

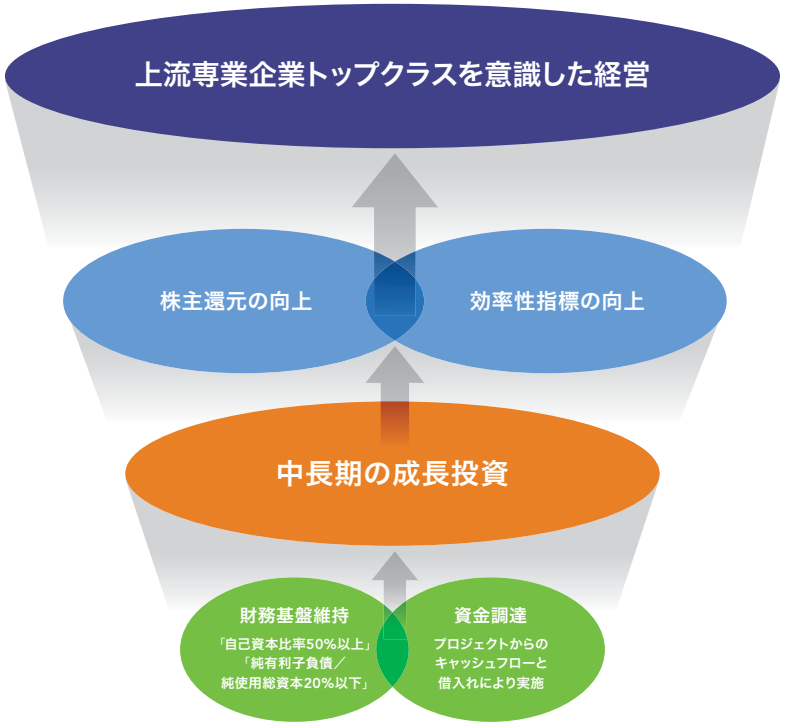
基盤整備 2 成長のための投資と適切な株主還元

成長のための投資と健全な財務体質の維持

今後の中長期にわたる投資を着実に実施するため、強固な財務基盤を維持しつつプロジェクトからのキャッシュフローと借入れによる資金調達を実施していきます。イクシスへの大規模投資を含む5年間においては、同プロジェクトの資金調達を最優先に考えつつ、探鉱・開発に的確な投資を行います（総額3.5兆円）。イクシス生産開始後は、同プロジェクトなどからのキャッシュフローの最大限の活用と借入れにより、10年間で6兆円を上回る投資を実施します。これらの投資を行うにあたり、引き続き「自己資本比率50%以上」「純有利子負債／純使用総資本20%以下」を目標とすることにより、健全な財務体質の維持を目指します。

適切な株主還元の実施と上流専業企業トップクラスを意識した効率的経営の実現

イクシスをはじめとする事業から生まれるキャッシュフローを次なる成長に向けて再投資に充当することによる持続的な企業価値の向上と株主への配当などによる直接還元とのバランスを図っていきます。このため、イクシスが生産を開始する時期から上流専業企業トップクラスの水準を意識しつつ、適切な株主還元を図るとともに中長期的に効率的な経営を実践していきます。



基盤整備 3 グローバル企業としての責任ある経営

CSR経営の推進

2011年12月に国連グローバル・コンパクトに参加し、全社を挙げて世界的に信頼される企業市民として取り組む姿勢を明確にするとともに、2012年4月には当社社長を委員長とするCSR委員会を設置、全社的なCSR推進体制を確立し、CSR経営を強化していきます。

コーポレート・ガバナンスの持続的強化

国際的な水準を目指して、2013年3月期よりコーポレート・ガバナンス強化策を実施します。

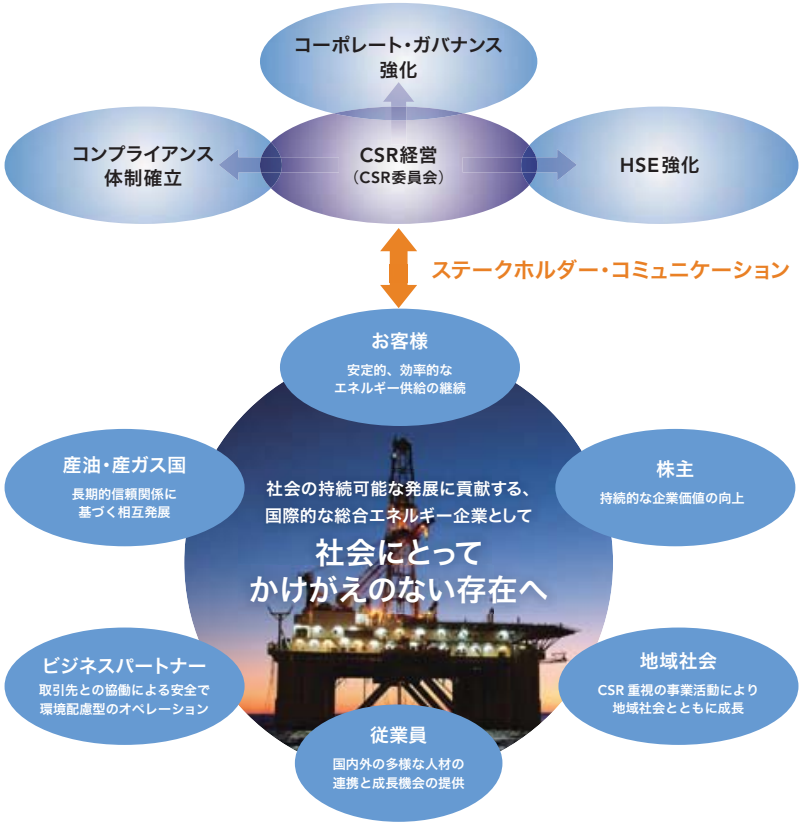
コンプライアンス、HSE体制の確立

ISO 26000※や日本経団連の企業行動憲章など国内外の準則に則り、グローバルレベルのコンプライアンス体制を確立、操業におけるHSEの強化に取り組んでいきます。

※ 2010年11月に国際標準化機構（ISO）により発行された、組織や企業の社会的責任について定めたガイダンス規格

ステークホルダー・コミュニケーションの強化

組織の情報発信機能を強化するとともに、海外拠点の活用も含め、グローバルな情報収集、情報発信の体制を整備します。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを重視し、積極的な情報開示、情報発信を一層進めていきます。



国際石油開発帝石株式会社
〒107-6332
東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー
TEL：03-5572-0200
http://www.inpex.co.jp/

INPEX中長期ビジョン ～イクシスそして次の10年の成長に向けて～
に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

経営企画本部 広報・IRユニット
広報グループ
TEL：03-5572-0233　FAX：03-5572-0235
IRグループ（投資家、アナリストの方）
TEL：03-5572-0234　FAX：03-5572-0235

Printed in Japan

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC™ C009249
Printing Naturally
ENERGY GREEN
VEGETABLE OIL INK